



# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

98.2.17 No. 4737

勝浦地労委に於いて、動労千葉顧問

## 水野正美勝浦市議証言

### 「勝浦運転区廃止は、不当労働行為だ！」

二月二日、一〇時より、千葉地労委において、「勝浦運転区廃止差別地労委」の第一五回審問が行なわれ、組合側証人として動労千葉顧問である水野勝浦市議に対する組合側主尋問が行なわれ、勝浦市における勝浦運転区の位置や廃止反対の署名活動や市議会に対するJRの対応などについて証言が行なわれた。

まず、水野証人の勝浦市議への立候補のきっかけとし、現場の組合員やJRの関連会社で働くOBから鴨川での測量の情報が入る中で、動労千葉としても拠点を守りぬくために全力を挙げて闘いぬくために九四年の大会で、勝浦運転区廃止反対、一口カル線廃止反対を掲げて立候補することになったことを証言した。

次に、九五年五月末の勝浦運転区廃止―鴨川運輸区設置提案直後から開始された廃止反対の署名活動についても、市民が運転区廃止に対する大きな憤りを示すとともに期待を寄せてくれた結果として一六二七一名の署名を集めるなど、勝浦市民の期待の大きさを物語る署名活動であったことを語った。

また、この署名活動の最中、

JR千葉支社の運輸部長と総務課長がJR総連の組織内議員である岩瀬議員と共に有力市議会議員宅を訪問し、手土産を渡していたことに触れ、政治資金規程法違反になることを承知で市議会に対する露骨な工作を行なったことを明らかにした。

しかも、署名を持って千葉支社の要請行動に参加した高教組の役員や同僚議員からも、ダイ改にあたってJRから事前の「説明」など一度も行なわれたことがなかった、と語っていることを紹介し、市議会議員宅の訪問が動労千葉の署名活動と市議会での勝浦運転区廃止反対決議を上げさせないようにするためであったことを明らかにした。

証言の最後に、勝浦運転区廃止の狙いが、一〇〇%動労千葉が占める外房の唯一の拠点を潰し、JR総連主導の職場をつくるために行なわれた不当労働行為であることを明らかにして証言を終了した。

次回審問は、四月三日、一〇時から、水野勝浦市議に対する会社側反対尋問が行なわれる予定となっている。

勝浦運転区の復活、一切の不当労働行為根絶、JR総連解体に向け、傍聴に結集しよう。

### 4 - 5 月国会闘争へ 2 - 1 1 東京集会開催!



二月十一日、東京・星陵会館において「新ガイドライン・有事立法粉砕、紀元節を許すな!」東京集会とデモが反戦共同行動委員会主催で開催された。

冒頭、三里塚反対同盟北原事務局長から三・二九全国集会への総決起が訴えられたあと、百万人署名運動実行委事務局長の中島誠氏は、「息の長い、へこたれない闘いをどう組んでいくかが今後のあらゆる運動に問われている。そのためには、有事立法諸法案とガイドライン、金融不安等、さまざまな問題の根幹が何なのかをあらゆる人々がわかる内容をつくっていくことが課題となっている」と語った。

元反戦地主の知花盛康氏は「日本国憲法の上に安保がある。普天間基地の県内移設は、半永久的に基地のなかで暮らせとい

うことだ。名護市長選は新たな闘いの始まりだ」と訴えた。また、沖縄現地にかけつけていた新城節子杉並区議から名護市長選特別報告が行なわれ、惜敗の要因について選対の枠組の狭さ、名護市民全体を立ち上げられるという点での不十分性などの総括が行なわれた。また、五・一五に再び不法占拠状態となる軍用地をめぐる再燃する沖縄闘争への決起が訴えられた。また、事務局から知花昌一さんが、読谷村議に立候補することが報告された。

基調報告が滝口誠反戦共同行動委事務局長から行なわれ、四〇五月有事立法関連諸法案上程阻止の国会闘争への決起が訴えられた。動労千葉からは、川崎執行委員が奮闘をストライキで闘おうという決意を表明した。